

No.1	踏み出し		
氏名	外所 祐香	経済学部	3回生

1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。

テーマは自習と交流でオンライン上で学生が2時間自分の課題を集中して自習し1時間他大学他学部で楽しくディスカッションします。きっかけは、コロナ禍という困難な状況で自分を含め学生の学習意欲や交流機会が少なくなったことに課題意識を持ちました。私は、家時間を有意義にすべく組織づくりにチャレンジしました。組織の目標は、学生の学習のモチベーションを高め、他大学他学部で学びをアウトプットして新しい気付きを得ることです。

2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。

緊急事態宣言下は毎日3時間運営し、それ以外も毎週3回3時間運営していました。タイムスケジュールは19:00～20:20自習前半、20:20～20:30休憩ディスカッション、20:30～21:50自習後半、21:50～22:00ディスカッションです。ディスカッションは新聞から時事問題を持ってきたり、フェルミ推定やウミガメのスープなどメンバーの意図を反映して決めました。2カ月に1回程度特大企画も行い、東大出身の物理学者の方から専攻分野のプレゼンや医学部生を招いてコロナ禍にどう変わるかをディスカッションしました。前半の計画では新しい人数を集めて組織を活性化させること、困っている人をより助けることを掲げました。後半の計画では後輩メンバーを巻き込んで組織を継続的なものにしたいと考えていました。

5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。

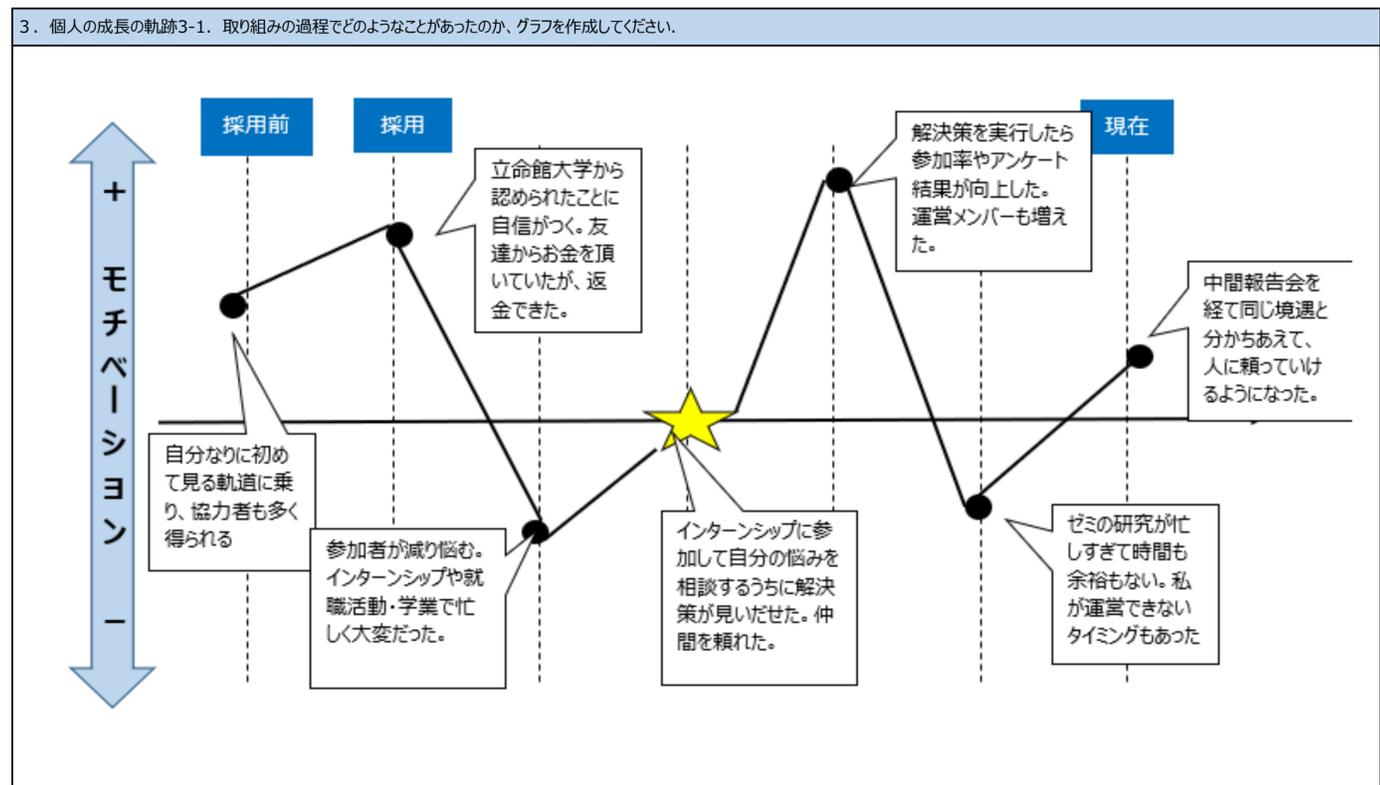
もっともっと多くの人と交流できる機会を作っていきたい。毎日運営することは負担も大きく、それよりも継続的なものにするこのの方が価値があると感じたので、頻度は減っても残していきたい。そして交流したい人や困っている人がもっともっと入れるようにしていきたい。

6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。

私の就職活動に大きな影響を与えました。この活動は学生時代に力を入れたこととして話しています。また就職活動の軸を作る実経験になりました。それは「0から1をつくりたい」「多くの人と接点を持ちたい」ということです。正解のない中で自ら考え、様々な人に働きかけながらよりよい解決策を探ることがどんなにたのしいことか感じることができました。社会人になっても、目の前の数字に追われるだけでなく、自分の考えや想いをもって正解のない中で試行錯誤していきたいと思えます。

7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。

コロナ禍に交流機会が減った人へ交流機会を提供したこと、そして学習意欲が減った人に学習意欲を高めることができたのは非常に社会的意義があると感じています。コロナショックは確かに悲しいこともありました。でも私はどうやったらコロナでも気持ち前向きにできるかな？とポジティブに考えることを楽しんでいました。メンバーに「学習意欲を高め、交流から新しい価値に気付く」ことができたのかアンケート調査を実施しました。その結果、75%が「学習の量と質を高めた」、87%が「交流から視点が多様になり視座が高まった」、93%が「新しい人脈を獲得できた」と評価していただきました。生の声では私がいたから他大学他学部の人と友達になれているような意見を吸収できたという言葉ももらえました。私は自分の成長だけでなく、「共に成長できる人間関係づくり」を大切にメンバーひとりひとりの個性を知り成長できるように一緒に頑張ってきました。やりたいことに挑戦することを応援してくれた校友会の皆様にもチャレンジできる環境を作ってください立命館大学にも感謝しています。私は校友会2020に未来人材奨学金を受給した代表者として登壇しました。このように自分の成果や考えていること感謝していることをアウトプットすることも今後チャレンジしたい人に貢献できたのではないかと感じています。



3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

最も困難な課題は「参加率が20%以下」であり、組織内のメンバーに質問したり、組織外の社長さんやリーダー経験者に相談する中で原因を「信頼関係の不足」と突き止め、解決策を2つ実行した。1つ目は、一人一人が組織を支える意識を持ってもらいたく、運営に協力してもらった。これにより、メンバーの意見をより反映した企画を作れる環境になった。2つ目は、個性を知るために一対一で交流する機会を設けることで、信頼関係が深まり自分の熱意を伝えられた。その結果、参加率が70%まで上昇した。人を動かすには信頼関係が土台となり、相手にメリットを与える論理的な側面とハートフルに熱意を伝える情熱的な側面の両輪が必要と学んだ。私は自分の活動に熱量をもって取り組んでくれるメンバーに感謝しており「私のおかげで新しい環境に飛び出す勇気もらった」「自宅で学習習慣がついた」という言葉が自分のやる気につながると思えた。

3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

自習と交流を目的にしていたので、「学習時間の確保」「読書時間の確保」「専門分野の学びの共有」に生かされた。自習の時間に正課授業の復習をするだけでなく、交流の時間に経済学で学んだことを生かしてアウトプットすることができた。「経済学はどんなことを学ぶのか」「経済学のおすすめの本は何か」という質問も多くあったため、学部の正課の学びをより深めることができた。また、経済学部ゼミナール論文大会のプレゼン内容もメンバーに聞いてもらってアドバイスをもらったことで専門外の人にわかりやすいプレゼンを作ることができた。

4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度	4
<理由> 個人の目標では組織づくりを継続的なものにできなかった点で反省が残る。この奨学金を機に後輩にアプローチしてより下級生に興味を持ってもらいたかったにもかかわらず、それを達成することができなくて悔しので今後の課題にしたい。組織の目標の「学習意欲を高め、交流から新しい気付きを得ること」は達成できたと考える。なぜなら2月にアンケート調査を実施した結果、75%が「学習の量と質を高めた」、87%が「交流から視点が多様になり視座が高まった」、93%が「新しい人脈を獲得できた」と評価していただいた。	
② 計画の達成度	3
<理由> 1年間を通して新しい企画を打ち出すことができた。前半の計画である新しい人を巻き込むことは最大50名まで規模を拡大することができた。さらに他の団体とコラボして集客の機会も試みた。後半の計画である後輩の組織運営の呼び込みはできなかった。学部横断プログラムでは声をかけられたが、後輩との接点が少なく難しかった。	
③ 取り組みを通じて自己成長	5
<理由> 組織づくりを通して「スピード感の速いリーダーシップ」と「相手を思いやるフォロワーシップ」を学びることができた。メンバーの強みを理解してそれを生かせるように企画に通すことができた。困っている人がいたらその解決策と一緒に考えるようにした。メンバーの意見を大切にしてよりよいものを一緒に作っていった。相手を思いやること相手を頼ることを学べて成長できた。メンバーが成長してくれたことが嬉しく、感謝の言葉が本当に嬉しいと感じた。	

10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。

① 身についた力	目標設定力、計画力、課題解決力、自己表現力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	目標設定力とは目標を設定する力、計画力とは目標を達成するために計画する力、課題解決力とは課題に仮説を立て解決策を実行し効果を検討する力、自己表現力とは相手にわかりやすく伝える力です。
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	

この奨学金を提出するために自分の目標や計画を整理して初めて文字に起こすことをしました。そして面接で聞かれるのでできるだけわかりやすく自分の考えをまとめ、相手に伝えるように努力しました。この取り組みを1年間継続できたのも受給者としての責務を果たそうという達成意欲があったからです。その中で困難にぶち当たることも多くありましたが、様々な人に相談しながら解決するようにしました。またこの最終報告書を作成するためにアンケート調査を実施し定量的にどのくらい目標を達成できたか図ることもできました。